

大きく育て 心と体

心の実 : 自他を尊重し、慈愛の心を持つ子供
学びの実 : 仲間と共に自分を高める子供
体の実 : 心も体も快活な子供

のびやかに
主体性、好奇心

かしこく
自己教育力

たくましく
レジリエンス、心身の強さ

のびやかに: 目標をもって
やり遂げようとする

かしこく: 能力を生かし、伸
ばそうとする

たくましく: 状況を把握し、前
向きに解決を図ろうとする

自分や仲間を慈しむ
向上的マインドセット

仲間とは: 学校の児童、教
職員、動植物、環境

向上的マインドセットとは:
結果を成長過程の一端、
経験と捉える

良質な土壌環境(安全・安心できる地域・家庭・学校)

1 三つの柱(目指す子供の姿と資質)

- ・ベースは良質な土壌(五百石地区、下段地区、大森地区、新瀬戸地区)
- ・「徳・知・体」のバランスのとれた子供育成
 - 徳(心の実) : 自他を尊重し、慈愛の心を持つ子供
 - 知(学びの実) : 仲間と共に自分を高める子供
 - 体(体の実) : 心も体も快活な子供
- ・実を大きくする幹「向上的マインドセット」と「自他を慈しむ心」
- ・結実させる資質・能力「のびやかに かしこく たくましく」

2 重点目標:主体性あるくらしづくり(学び)を進める子供

第Ⅰ段階: 課題依存型(興味・関心、外化の活動)

第Ⅱ段階: 自己調整型(メタ認知、目標・方略の調整)

第Ⅲ段階: 人生型(自己実現、人生の目標達成、ウェルビーイング)

3 目標達成のための役割とアプローチ

- ・子供の役割: 「主役」自ら課題に関わり、仲間と共に高まり合う(自走・協働)
 - ① 思いや願いを顕在化する
 - ② 自己決定
 - ③ 試行錯誤
 - ④ リフレクション
- ・教職員の役割: 子供の「伴走者」であり、人生のお手本(先生)。子供の心に火をつける。
 - ① ファシリテーター
 - ② コーチ
 - ③ お手本

4 具体的施策「授業で勝負」子供が育つ最大の機会

- ・カリキュラムマネジメント(単元構想、余白時間の活用、自学自習の推進)
- ・子供の見取り(くらしにおける成長過程、学習過程を捉え、解釈する)
- ・授業改善(「主体的・対話的で深い学び」、リフレクション)